

「英語担当教員が口にできない人生を楽しむ英会話術
～You would enjoy your life if you read this instruction～」【後編】

グローバル工学教育推進センター 大門裕之

前編では、英会話力の重要性和英語術が人生を変える理由を話しました。後編では、具体的な、その「術」を紹介します。

その0) とにかく英会話で恥ずかしがっていたら絶対にあきません。(これは英語の先生も口にされるので、0としました。)日本人は、特にその傾向が強いですか、『英会話において、』どうやら恥ずかしがるのは日本人だけのようです。確かに、中学時代から6年以上も勉強してきたにも関わらず、英会話になると尻込みするのもわかります。しかし、それは英会話の機会がなかっただけであり、英語以外の科目の勉強に時間を費やしてきたからなのです。何も恥ずかしがることはありません。そもそも世界中、日本人が恥ずかしがり屋だと知っています。しかし、この英会話術で、恥ずかしがり屋を返上しましょう。

その1) 発音やイントネーションを気にしたらあきません。これも日本人だけなのかもしれません。英語が母国語ではない人の発音やイントネーションにもそれぞれ独特なものがあります。文法でさえ???です。よく聞けば、英語ではなく母国語も混じっている時もあります。これも、皆さんがこれまで受けてきた英語のテストの最初の問題ではほぼ必ず、発音やイントネーションについて出題されていたことから、過剰に意識するようになっているだけです。

その2) 英語で会話をする相手は耳が遠いと認識すべきです。耳が遠いため、小さい声で英語を話すと相手は聞こえないのです。聞こえていないので、「聞こえない!」「何?」「もう一度言ってみてください。」となるのですが、日本人は、「自分の英語がおかしい」、「間違っている」、「通じない」、「発音が悪い」などと負のスパイラルに落ち込むのです。さらに、相手は、日本人のようにこちらの言いたいことを察してはくれません。海外の文化ではそのような訓練をしていませんし、そもそも共通理解や認識、常識と言うものがないので、相手を察することも容易ではありません。よって、英語を話す時は、大きな声を出す必要があります。それだけで相手に喜ばれますし、受け入れられます。

その3) 英会話の際は、英語でものを考える必要があるのですが、それはなかなかできません。最初に思い浮かぶのは日本語で、しかも、漢字で構成された単語を思い浮かべる人が多いはず。この時、皆さんはこの漢字を英語に直訳しようとするものです。そうすると言葉が出てきません。そうではなく、その単語を、知っている言葉で、小さい子どもに説明するように訳せばよいのです。例えば、「食堂」を示す「cafeteria」が思い浮かばない時は、「食事をする場所」と言えばよいのです。

その4) 日本人は、行間や空気を読む能力に長けています。相手の考えや思いを察する能力、すなわち、フォースがあります。小学校の国語の授業からフォースをたくさんと学びました。そのフォースを信じるのです。考えるのではなく、感じるのです。しかし、感じているだけではいけません。英語を発してください。コツとしては、単語の全てを聴きとろうとしないことです。このフォースについては、スターウォーズのエピソードIVをご覧ください。

英語の先生が決して教えない英会話の極意！！

- 0) 恥ずかしがってたら**アカン！！！！！！**
- 1) 発音やイントネーションなんて気にしたら**アカン！**
- 2) 相手は耳が遠い！ 察する気持ちなど**あらへん！**
- 3) 漢字を英語へ直訳したら**アカン！**
小さい子がわかるように説明する！
- 4) 日本人が有するフォースを信じな**アカン！！！！**

会話の目的は、意思の疎通であってカッコをつけることではない！！！！

本当は、英会話術の主旨から外れて、発音上達法や英会話のフレーズ記憶法などもお話したいところですが、まずは上述の極意だけにしておきます。最後に、本学では、約半数の留学生（マレーシアとインドネシアからの留学生で141名）に対してマレー語が通じます。ここでマレー語を少しだけ紹介しておきます。「人＝オラン」「お米＝ナシ」「魚＝イカン」「指輪＝チンチン」「あらまあ！＝アラマア！」。私の好きな言葉は、「無駄にするな、もったいない＝ムーバジル」です。これらの言葉で、ぜひマレーシアかインドネシアからの留学生と会話をしてみてください。これで人生が変わる、あるいはもっと楽しめるかもしれません。未知との出会いと経験で人間力を向上させてください。

これを読んで、何かを感じてもらえれば幸いです。私とどこかでお会いした際には、恥ずかしがらずに「Hi, How are you doing?」とぜひ声を掛けてください。私は、日本人らしく「おかげさまで」と応えます。

May the Force always be with you!